

行歯会だより 第104号

(行歯会 = 全国行政歯科技術職連絡会) 平成 27 年 7・8・9 月号

【今号の記事】

- 1 第 33 回地域歯科保健研究会(夏ゼミ in しが 2015)を終えて
滋賀県南部健康福祉事務所 若栗真太郎
- 2 公益社団法人日本歯科衛生士会 武井典子会長 特別寄稿
超高齢社会に求められる歯科衛生士のキャリア
公益社団法人日本歯科衛生士会 会長 武井典子
- 3 平成27年度第2回行歯会理事懇談会報告
東京都福祉保健局医療政策部歯科担当課 白井 淳子
- 4 若手奮闘記No.4
熊本県熊本市健康福祉子ども局健康づくり推進課 江頭 陽子
- 5 書籍紹介

1 第 33 回地域歯科保健研究会 (夏ゼミ in しが 2015) を終えて

滋賀県南部健康福祉事務所 若栗真太郎

行歯会会員の皆様が一度は耳にしたことがあるでしょう地域歯科保健研究会。夏ゼミと表現した方が、ピンとくる方が多いでしょうか。年に 1 回、7 月末に開催される夏ゼミでは、地域歯科保健に携わるアツい人たちが全国から集います。目的は人それぞれ、新たな知見、新たな出会いはもとより、古き知人、恩師、級友との再会を楽しみにしている人も多いでしょう。夏ゼミ後の懇親会を目的にする強者も脳裏をよぎります。皆様におきまして、夏ゼミに参加するにあたっては、それなりの思いを抱いて会場に向かうのではないのでしょうか。

では、想像してみてください。ある日突然、あなたが夏ゼミを開く側に回ったとしたら...

皆様こんにちは。滋賀県南部健康福祉事務所（草津保健所）の若栗と申します。この度、夏ゼミにて実行委員長（ゼミ長）を務めるという貴重な経験をさせていただきました。

平成 27 年 7 月 25 日（土）、26 日（日）滋賀県にて、第 33 回地域歯科保健研究会（夏ゼミ in しが 2015）が開催されました。2 演目の基調講演と夏ゼミでは初めての試みとなるワールドカフェ形式のグループワークを軸に、テーマである「継承」について、参加者の皆様に考えていただきました。

生涯で 1 度あるかないかというゼミ長という立場で迎えた今年の夏ゼミの概要を、回顧も兼ね、この場を借りて御報告させていただきます。

【1 日目】

★受付～開会あいさつ★

心配していた台風の影響もなく（※この 1 週間前に、台風 11 号が猛威を振るっていた。）快晴に恵まれた初日、参加者が続々と会場であるアヤハレクサイドホテルに集う。新幹線のぞみが運行して以来、京都-名古屋間に所在する滋賀県は、30 分強という短い通過時間内で、その存在感をアピールする術もなく、無情にも素通りされてきた。おそらく、滋賀県に降り立つのは、今回が初めてという人も多かったのではないかと推察される。出典は明らかではないが、日本一知名度の低い県名であり、真剣に県名の変更を県民にアンケートするような真面目な滋賀県は、確かにそこに存在したのだ。



「滋賀県？ああ、琵琶湖がある県ね。あれ、陸地ってあるの！？」

「安心してください。140 万人が住んでいます。」

心で会話を交わしながらも、参加者約 110 人の受付が無事終了。さっそくゼミ長（不肖、私である。）から御挨拶。恒例である「夏ゼミ 3 か条」の宣誓と、テーマ「継承」の紹介、そして、今回の肝である、「若手」「中堅」「ベテラン」「歯科医師会」「研究機関」のどこに自分があてはまるか、まずは意識してもらいたい旨を説明させていただきました。

★基調講演 1 新潟県『地域歯科保健医療 40 年のあゆみ』★



開会あいさつを終えると、トップバッター、石上和男教授（新潟医療福祉大学）による基調講演が開演。言わずと知られ、説明の必要もないかもしれないが、石上教授は新潟県庁に勤務され、在職中は歯科医師でありながら福祉保健部長もお勤めになられたレジェンド。すでに新潟県庁を定年退職されているが、精力に満ち溢れた弁舌で、在職時代の貴重な経験、見識、参加者へのアドバイス等を講演いただきました。

石上教授ありがとうございました！

★ブレインストーミング～グループワーク 夏ゼミカフェ開店！★

基調講演の興奮も冷め止まぬ中、滋賀県および大津市の職員からなるかしまし4人娘（失礼！）によるブレインストーミング開始。会場の雰囲気はぐっと夏ゼミっぽく醸成される。

間髪入れずグループワークの説明が開始。今回はワールドカフェ形式を企画させてもらったが、ワールドカフェに参加するのは初めてという方のために、チュートリアルを設けました。担当するのは実行委員であり、実質、私をゼミ長に仕立ててくださった、赤井委員（大阪フリーランス）、河本委員（岡山市職員）。お二人には、夏ゼミ前後にわたり、たくさん尻を叩いていただきました///



今回のグループは、以下の8種類。

- ① 「若手（市区町村）」
- ② 「中堅（市区町村）」
- ③ 「ベテラン（市区町村）」
- ④ 「若手（都道府県）」
- ⑤ 「中堅（都道府県）」
- ⑥ 「ベテラン（都道府県）」
- ⑦ 「歯科医師会」
- ⑧ 「大学等研究機関」

それぞれ勤務年数と所属によって、事前に割振りをさせていただきました。一部の参加者（特に常連様）は、テーブルについた際、何らかの意図を感じ取ると同時に、「2日間このメンバーか!？」と一抹の不安を抱いたのではなかったかと思えます。すいません、意図ありありでしたね^^

さて、意図はあれども悪意はなく、幸いにもワールドカフェは席替えを交えたグループワーク。他職種、他世代との意見交換の場は準備してございました。今年の夏ゼミは、まさにこの他職種、他世代を意識し、自分の立場では地域歯科保健医療のために何をすべきか、また、別の立場に対しては何を伝えるべきか（継承すべきか）を考え、話し合っていたくことを主題にさせていただきました。

★夏ゼミカフェ ラウンド1~3★

<ラウンド1 グループ内情報共有>

- ① それぞれの悩みごと、困りごと、心配事を共有しましょう。
- ② 他職種、他世代に求めること、期待することを書きなぐりましょう。

<ラウンド2 グループ間交流>

（他職種、他世代が集まるよう事前に指定されたテーブルへ旅立ち）

- ③ 他職種、他世代に求めること、期待することを吐き出しましょう。
- ④ 異職種、異世代からの意見を、持ち帰るために整理しましょう。

<ラウンド3 グループ内協議>

（自分たちのグループに帰還）

- ⑤ ラウンド2で得られた意見を踏まえ、自分たちが「目指すべきこと」、「あるべき姿」をまとめましょう。



1 日目は、これにて終了。神奈川県の北原先生から御講評をいただいた後、一同は懇親会会場へ向かうのでした。

【2 日目】

★定期報告 8020 の里だより★

琵琶湖畔の熱い夜の余韻を頭す赤ら顔が散見される中、夏ゼミ 2 日目が始動。まずは、中田和明先生（兵庫県香美町国民健康保険 兎塚歯科診療所・川会歯科診療所長）による定期報告「8020 の里だより」からスタート。中田先生を中心に繰広げられる兵庫県香美町での地域歯科保健の取組、調査はワクワク感が半端ない。毎年楽しみにされている方も多いのではないのでしょうか。今年も、まるで物語を聞いているかのような感覚で、あっという間の 20 分間でした。歴代の「8020 の里だより」を集めれば、1 冊の本ができあがりますね。（中田先生待っています！！）



★基調講演 2 『歯科保健情報の見方と集積方法』★

さて、夏ゼミっぽいお話の後は、少し真面目なお話。今年の夏ゼミの企画方針のひとつに、「勉強の場としての夏ゼミ」が含まれていました。行政職に就職してしまうと、何かと事務作業に追われ、知識のアップデートが疎かになってしまっていると感じることはありませんか？（私は、大いにある。）歯科保健の専門家として雇用されている私たちにとって、そのよりどころである専門的知識が古いものであるのは致命的です。では、最新の情報というのは、どこで手に入るのか？それを学ぶ場として、

森田学教授（岡山大学）に御講演をいただいた本題は、なんとなく使っていた歯科保健情報の情報源や、その情報の解釈等、自分が持っている知識に対する意外な驚きを感じてもらえたのではないのでしょうか。また、今後新たな歯科保健情報を収集する際に役立つヒントもいただき、大変貴重な学びの場となりました。森田教授ありがとうございました！！

★夏ゼミカフェ Final round『地域歯科保健のためのロールモデル』の提案～夏ゼミ閉幕へ★

参加者の疲れも見え始める 10:55 a.m. 前日からのグループワークのまとめに入ります。

<ラウンド 4 全体セッション>

⑥ 前日にまとめた『目指すべきこと』、『あるべき姿』実現のために、基調講演も参考にしながら、どのようなスキルが必要かをまとめましょう。

⑦ 各グループから、『目指すべきこと』、『あるべき姿』、『そのためのスキル』を発表。

なお、各グループの立場を可視化するため、ロールモデル図を準備しました。ここで、グループワークは終了。参加者の皆さんが、それぞれの立場から、地域歯科保健を推進するための姿勢、役割を、改めて表明した瞬間でした。

その後、東京都の長行歯会長からの御講評をいただき、ついに夏ゼミが無事終了。長いようであつという間だった2日間でした。



さて、夏ゼミ in しが 2015 を開催するにあたり、多くの人たちの御協力を賜りました。何1つ、誰一人が欠けても、本夏ゼミの開催は不可能だったと確信しています。御講演を快諾してくださいました石上教授、森田教授、中田先生、御講評をいただいた北原先生、長行歯会長、夏ゼミ実行委員の皆様、そして御参加いただいた皆々様。この場を借りて深く感謝申し上げます。



長文を最後まで読んでいただいた行歯会の皆様、ありがとうございました。…現在、2016年以降の夏ゼミ開催地は未定と聞いています。次はあなたがゼミ長かもしれません。私の部屋で眠る「第〇〇回 地域歯科保健研究会」の横断幕を送付できる日を楽しみにしております！さあ、あとは報告書作成だ！

2 公益社団法人日本歯科衛生士会 武井典子会長 特別寄稿

超高齢社会に求められる歯科衛生士のキャリア

公益社団法人日本歯科衛生士会
会長 武井典子



この度、日本歯科衛生士会の会長を拝命致しました武井典子と申します。どうぞ、宜しくお願い致します。金澤前会長は、日本歯科衛生学会や認定研修制度を立ち上げ、さらには当会の公益社団法人化や歯科衛生士法の一部改正など多くの業績を残して下さいました。今後も、これまでの事業を継承し発展させていきたいと考えています。

現在、私が力を入れて取り組んでいます事業は、生涯研修制度の充実です。2008年に「生活習慣病予防」「在宅療養指導」「摂食嚥下リハビリテーション」の3つの認定歯科衛生士制度がスタートしました。その後、関連学会との連携も含め、現在2,170名の認定歯科衛生士が登録・公表され、全国で活躍しています。しかし、近

年の急速な高齢化の進展とともに、保健、医療、介護と連携した業務推進がますます重要かつ不可欠となり、今後はさらに地域包括ケアシステムの中において、高齢者の口腔機能管理をベースとした訪問口腔ケアなどの役割が期待されています。これらのニーズに対応するためには認定研修制度のさらなる充実が重要です。また、病院や施設さらには在宅等において歯科衛生士が一層その専門性を発揮できるよう、実技研修にも力を入れる必要があります。今後、都道府県歯科衛生士会や教育養成機関と連携し、チーム医療の一員として歯科専門職の実力向上につなげられるよう努力したいと思っております。

さらに、歯科衛生士がより広く国民一般から信頼される存在として活躍するためには、最新の歯科医療情報や技術・技能、また変化する社会ニーズに柔軟に対応できる能力や広範な知識の獲得が必須であり、そのためには継続的な生涯研修制度の充実が不可欠です。

一方、歯科衛生士会がそうした社会的ニーズに対応した生涯研修制度を充実するだけでは、歯科衛生士が高い専門性を持った医療職であるとの理解を多職種や多くの国民から得ることは難しいと思っております。現在、就業歯科衛生士数は116,299名(平成26年12月末現在)であり、前回調査から8,176名増加しています。今後、一人でも多くの歯科衛生士が職能団体である歯科衛生士会に入会して、その職能団体の生涯研修を継続的に受講し、歯科衛生士は常に専門性の向上に努めている職種であることを広く社会にアピールすることが大切です。

超高齢社会において、人生の最後まで“食べる”“話す”等の口腔機能や生活者のQOLを支えるために、科学的根拠をベースにした高い専門性を基本に、生活者に寄り添った歯科医療に貢献できるよう、皆様とともに歯科衛生士のキャリアアップを図り、社会から期待される役割を全うできますことを願って止みません。

3 平成27年度第2回行歯会理事懇談会報告

東京都福祉保健局医療政策部歯科担当課 白井 淳子

日時:8月26日(水) 19時~21時

場所:オフィス東京(東京都中央区京橋1丁目6番8号 コルマ京橋ビル)

出席者:長、高澤、安藤、中村、秋野、柳澤、田村、山田、石川、加藤、吉野、白井

◎報告事項

1. 日本歯科医師会、日本歯科衛生士会との会談(長会長)

(1) 8月16日 日歯会館訪問(長、中村、安藤)

対応者 山科副会長、浅野専務理事、深井常務理事

- ・行歯会の組織、活動について説明、行歯会だより100号特集からフロリデーションについて、また、これまで日歯から依頼された調査などを報告した。
- ・深井常務理事に行歯会だよりへの寄稿を依頼
なお、会談後、深井先生(8020推進財団専務)から8020財団会誌に行歯会を紹介する内容の執筆依頼があり、依頼を受けることにした。

(2) 8月18日 日衛武井会長と懇談(長、中村、安藤)

対応者 武井会長

- ・日衛も厚労省への歯科衛生士配置を要望している。今後、行歯会と一緒に活動していきたい。

- ・長会長に地域保健委員へ入っていただきたいとの依頼あり。
 - ・武井会長に行歯会だよりへの寄稿を依頼
2. 会員名簿の更新（柳澤事務担当理事）
30件程個別に訂正依頼があり、9/3訂正版を再送し、2015年版は確定とする。
 3. 行歯会だより（長会長・中村事務担当理事）
 - ・編集担当者は藤川ブロック理事（北海道）から高橋環ブロック理事（高知県）へ交代する。
 - ・口腔衛生学会理事長に行歯会だよりへの寄稿を依頼（安藤事務局長）
 4. アンケート 2015 シリーズ 1, 2 まとめ
片岡ブロック理事が集計し、項目を抜粋して会員へメールリストで報告する。
 5. クィンテッセンスの行歯会原稿について（安藤事務局長）
 - ・順調に進み、後は、安藤先生担当の最終回のみとなった。
 - ・クィンテッセンスの担当者からは、比較的年配の読者層に行歯会会員の記事が好評であること聞いている。年配の読者には歯科医師会の理事などが多く、行政と接触する機会が多いためと思われる。

◎協議事項

1. “今後の行歯会活動の方向性を探る” アンケート 2015 シリーズについて（中村事務担当理事）
 - ・シリーズ3は、アンケート結果をスタートとして、行歯会の活動を考える材料にしたい。
 - ・①世界の行政歯科 ②人材育成を視野に入れたアンケートを実施することとする。
2. 行政の歯科専門職、特に歯科衛生士の人材育成について（長会長）
 - ・近年、世代交代で若い方たちが多く行政へ入ってきている。地域歯科保健研究会（夏ゼミ）でも、昨年度若手対象のプレゼミが行われ、今年度は「継承」をテーマに展開し、共に好評であった。
 - ・公衆衛生歯科衛生士の教育が十分でないことから、行政に入ってから初級者、上級者どちらも研修が必要である。
 - ・千葉県は、近年多くの若手が入ってきているため、新任研修を行うことになった。
 - ・行政歯科衛生士の人材育成マニュアル必要でないか。
→地域差や地域性があって難しい。引き続き、課題とする。
3. 災害歯科保健医療連携協議会 WGについて（柳澤事務担当理事）
報告：8/26 日本歯科医師会にて第2回のワーキンググループが開催され出席した。協議会参加団体・協会などにおける災害時の体制等の現状の把握からということで、意見交換が行われた。次回以降も、段階的に、現状を把握していき、協議会を連携母体として実践的な災害時体制構築に向けた検討を進めて行く方向性と認識している。
今後9月と11月に再度調査が行われ、議論継続となる。

【第2回予定調査項目】

- ・所属会員等の安否確認の方法

- ・災害時の指揮命令系統
- ・災害対策本部設置場所の有無とその所在地、緊急時の連絡先
- ・災害時の連絡体制
- ・災害時対策としての教育・研修の方法やテーマ等の具体的内容

【第3回予定調査項目】

- ・各参画団体が支援できる事項
- ・各参画団体の上記に係る支援体制
- ・各参画団体の支援参加可能な人数、時期、期間
- ・歯科医療資器材・歯科衛生用品の提供可能な場合の内容・量

以上を踏まえ、行歯会としての包括的な回答は困難であり、個別的な事例収集が必要になるものと思われることから、会員に向けた WebQ 等を活用したアンケートを実施することとした。

4. 平成 27 年度厚生労働科学研究

「長寿・障害総合研究事業高齢者の摂食・嚥下・栄養に関する地域包括的ケアについての研究」について（白井ブロック理事）

- ・東京医科歯科大学の戸原玄准教授を研究代表者として、研究に取り組んでいる。
- ・26 年度は摂食嚥下に対応する医療機関、施設等について全国調査済。医療機関はマップにして提供していく。
- ・本年度は、全国の行政、保健所の取り組み状況調査を行い、先進地域を把握するとともに、今後取組予定があるところを調査し、マッチングにより情報交換できるように支援していく。
郵送による保健所調査も予定しているが、郵送調査に先立ち、行歯会会員に WEBQ 調査をさせていただきたい。

5. 公衆衛生学会の自由集会について（高澤副会長）

テーマ「多職種で考える・進める歯科保健ー公衆衛生から見たフッ化物応用ー」

日時：11 月 5 日（木） 17：00～18：30

会場：長崎県総合福祉センター 4 階 中会議室

公衆衛生学会の自由集会について、森木副会長が代表世話人、高澤、福田先生（長崎大学）が世話人となって開催することとなった。歯科以外の職種も含め、ぜひ参加を周囲に呼びかけてほしい。

6. 「乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究」班調査について（田村事務理事）

今年度は、乳幼児健診に関連した保健指導とその評価等について、市区町村における実施状況、ならびに県型保健所や都道府県の支援や取り組み等の状況を把握するため、現在、都道府県、県型保健所、市町村を対象に実態調査を実施している。8 月 18 日付で調査依頼をお送りしており、既に所属の母子保健担当課には届いているかと思う。この調査では、歯科に関する質問も 2 問入っているため、母子保健の担当から照会がありました際には、回答をよろしくお願ひしたい。

<場所を変えて> — ささやかにアルコールと親しむ会 [いつものように] —

4 若手奮闘記 No. 4

熊本市健康福祉子ども局健康づくり推進課 歯科衛生士 江頭 陽子

【はじめに】

行歯会の皆様、はじめまして。熊本市健康福祉子ども局健康づくり推進課の江頭といいます。いつも行歯会の皆様のやり取りを拝見し、勉強させていただいております。

私は平成25年度に入庁し、今年で3年目になります。まだまだ分からない事が多く、職場の方や歯科専門職の諸先輩方に助けてもらいながら日々業務に励んでいます。



【熊本よかところばい】

熊本といえば、熊本城や阿蘇山、馬刺しに辛子れんこん、そしてくまモンと多くの観光名所やグルメがあります（くまモンは県のキャラクターですが…）。また、熊本市の水道水は100%地下水のため、毎日おいしいお水を飲むことができます。

そのような恵まれた自然と適度な都会感のある熊本市で私は働いております。熊本市は、平成24年度から人口73万人の政令指定都市になり、歯科医師2名、歯科衛生士8名が常勤として、本庁と5区役所でそれぞれの業務を行っています。

【熊本市における私の担当業務について】

私の入庁1年目は行政職として必要なスキル（起案の仕方や公文書の書き方、イベントの企画など）を身につけるために、市民向けの健康講座、がん検診等の業務など、本庁でしか出来ない業務にも携わらせて頂きました。歯科衛生士ではなかなか出来ない業務をすることで、今まで考えていなかった事を考えたり、物事を広い視野で見たりするようになったと思います。

入庁2年目に入って、本格的に歯科保健業務に従事することになりました（熊本市での歯科保健事業は図1に示すとおりです）。私が担当している業務は主に、小学校でのフッ化物洗口を推進するための啓発活動や（図2, 3）、歯科保健に関する地域ボランティアである「8020推進員（図4）」の育成（育成講座は区役所で行いますが、私は全体の取りまとめや会議の開催等を担当しています）、外部委員で構成された歯科保健推進協議会の開催、区役所の実績の集計等を行っています。特に外部の方とのやり取りや関係づくりについては丁寧な対応が出来るように心がけています。

業務を行う上で困っていることは、私は入庁して初めての職場が本庁だったため、区役所で行う歯科健診や健康教室、小学校での歯みがき指導などの現場の実情を全て把握できていないことです。そのため、現場のことで分からないことがあれば、先輩方に教えて頂きながら学んでいます。

図1 熊本市におけるライフステージに応じた歯と口の健康づくり事業

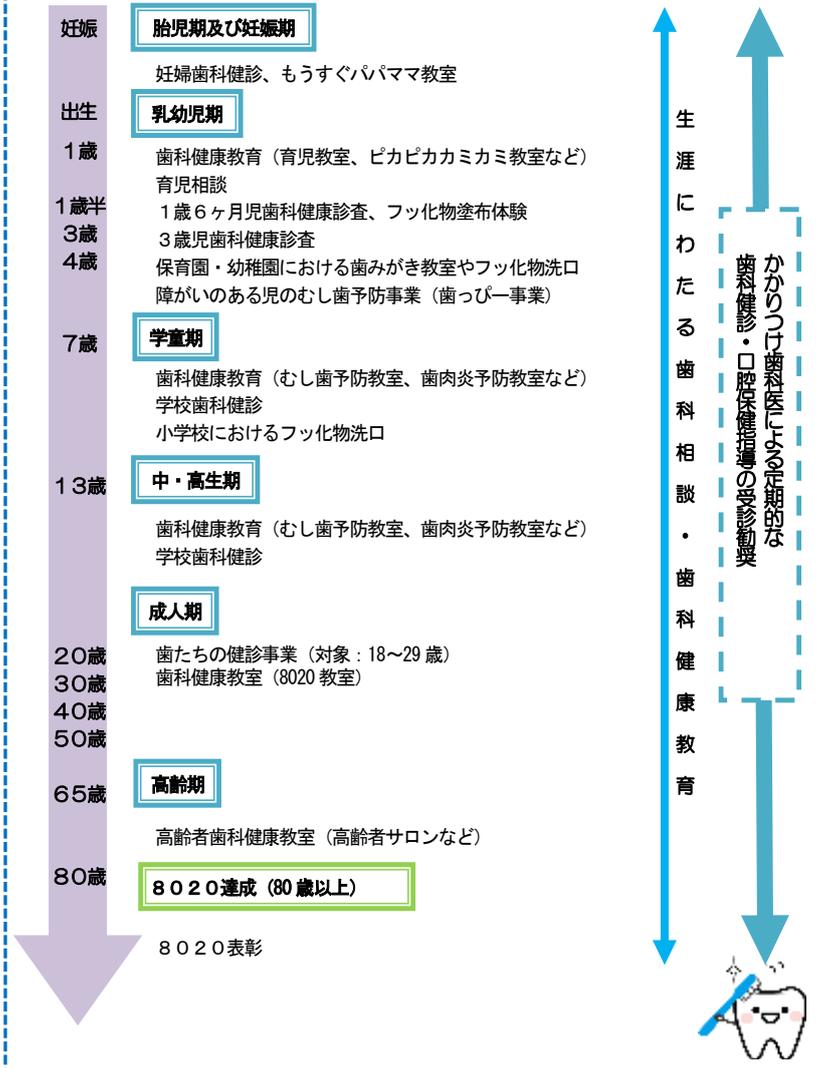


図2 ロアッソ熊本ホームゲーム会場にて来場者へフッ化物洗口体験を実施



図3 市歯科医師会との共催イベントにてくまモンがフッ化物洗口コーナーに来てくれました！



図4 8020推進員の合同研修会の開催

【今年の夏ゼミに参加して】

私は今年の滋賀県で開催された夏ゼミ（第33回地域歯科保健研究会）に初めて参加しました。夏ゼミを通して、行政で働く歯科専門職のつながりの大切さを実感することができました。行政の中の歯科専門職は少数職種であるため、どこの市町村でも同じような問題や不安を抱えているということを知ることが出来ました。また他都市の同年代の歯科衛生士の方々と出会うことができ、参加して本当に良かったと感じています。

関係機関（歯科医師会や大学）の方々も含めたグループワークで、行政が関係機関に求めること、関係機関が行政に求めることを意見交換することが出来ました。今後、熊本市の歯科保健を推進する上でも、歯科医師会等との連携が重要となるので、今回の夏ゼミで学んだことを活かしていきたいと思います。夏ゼミのスタッフとして従事された方々に心から感謝します。ありがとうございました。

【今後頑張りたいこと】

私は、行政職としてのスキルも歯科衛生士としてのスキルもまだまだ未熟です。人前で話すこともあまり得意ではありません。しかし、少しずつ自分の短所を克服し、長所を伸ばしていき、一人前の歯科衛生士を目指したいと思っています。そのためにも、積極的に職場での研修や歯科衛生士会での研修、学会等に参加して

いきたいと思います。

【最後に】

熊本市は他都市に比べ歯科医師や歯科衛生士の先輩方が多いため、私はとても恵まれた環境にいると思います。それだけでなく、熊本県の歯科衛生士の方々にも温かく見守ってもらっており、非常に心強く感じています。そのような先輩方の背中を見て、しっかり学んでいきたいと思います。

行歯会の皆様にもご指導いただきながら、頑張っって参りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

5 書籍紹介

「呆けたカントに「理性」はあるか 大井玄 著（新潮新書）」

静岡県健康福祉部東部健康福祉センター 中村 宗達

書籍紹介についてです。

行歯会でこんな本の紹介は場違いになりますかね？

「呆けたカントに「理性」はあるか 大井玄 著（新潮新書）」です。

私が普段読むのは、ほとんどが新書です。小説はまれです。量も多くはありませんが、今年上半期に読んだ本で「これはおもしろいわ！」がこれです。おすすめ本です。内容は、PEG（胃ろう）を施すときに認知症の患者の同意は意味があるのか（認知症患者に理性はあるか）を導入に、私たちの理性というものにメスを入れていきます。理性とは何か、本書を読んで、私の理性についての理解はどうもカントの時代で止まっていたようです。理性とは人間を人間たらしめているものであって、肉体的情動を抑制する高貴な存在である・・・とあなた、思ってますか？あっそーか、と思わせてくれるおもしろい本であります。

当然のことながら、認知症についても勉強になります。

タイトルも3つかけてあって、シャレってます。

1. 理性の旗手カント
2. 呆けと理性
3. 実はカントは晩年、呆けていた！！

デカルト、カントに騙されていた 中村

編集後記

- (K) 気が付いたら3か月分の合併号となりました。次号からはHPにある「ほぼ毎月発行」を目指したいと思います。藤川さん、1年間編集担当お疲れさまでした！！
- (F) 今回で、編集担当を終えることになりました。担当期間中は、長会長をはじめ、森木先生、片岡先生、御執筆いただいた皆様など、たくさんの方々にご助けいただき、大過なく次の担当者へバトンを引き継ぐことができ、心から感謝しています。どうもありがとうございました。

「歯っとサイト」 掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html>

では、掲載コンテンツを募集しています。

- ・ Web 媒体（リンクをはる）場合は、下記 URL へ

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/youbou.html>

- ・ PDF 等のファイル媒体での提供も可能です。

希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている窓口宛に御連絡ください。